

令和 6 年度事業報告

学校や企業、地域団体など SDGs の取り組みや環境問題への関心が高まっており、イベント出展やワークショップ、企業とのコラボレーション等の依頼が増えている。コロナ以降、従来のイベントに加え、新規開催のイベントも増えたため、時期が重なってしまうこともあるので、他団体との情報共有、連携を尚一層図っていく必要があるが、年度の区切り等や、近年の気候状況等から秋以降に集中してしまう。学校行事やイベント等、開催希望はなるべく早めに連絡をもらえるよう、水辺、クリーンアップも併せて案内をどうするのか等検討していく必要がある。また、課題を単独でとらえるのではなく、環境問題×地域の課題等、併せて考えていく必要がある。

海岸漂着物問題の啓発に関する事業の依頼も増えているが、環境問題をきっかけとして他の課題との接点の気づきや広がり、多世代に向けて継続的に啓発をしていくことが重要である。行政や企業の協力を出来るだけ多く呼び掛けていくこと、助成金の確保や活用、他団体との連携に努めてきた。

大雨の被害により、屋外での活動が主となる事業については案内や実施を見合わせたものもあった。

 将来を担う世代の育成《教育・啓発》

1 身近な川や水辺の健康診断

(1) 実施状況

①実施検討会

4月17日に開催し（Webでの参加可能）、実施体制や調査マニュアル等を決定。

参集者：地域部会、大学、地域で環境保全活動に携わっている方々、国・県の行政機関

②調査期間

例年のように、世界環境デーに合わせ6月1日～9日を原則として調査期間を設けるが、天候不順など諸事情に対応して、10月18日までとし、安全に実施できるよう期間を延長した。

参加申し込みは、原則の調査期間にあわせて5月17日までと設けるが、調査期間にあわせ、期間中随時申し込みを受け付けた。

③主な調査内容

・透視度計（1 m）による透視度調査

・パックテスト（簡易水質検査器材）による水質調査

6項目：pH、COD、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、リン酸性リン

・水辺環境（ゴミや川の中や水辺の生きもののすみ場の様子など）の簡易目視調査

・水生生物調査：山形県環境科学研究センターと連携し、希望グループについては身近な川や水辺の健康診断との同時申込み可能。

④参加申込み 67 団体・958 名・195 箇所（前年度：71 団体、776 名、206 箇所）

⑤調査実施結果 67 団体・957 名・180 箇所

※（ ）内の数値は、令和5年度状況

	置賜地区	村山地区	最上地区	庄内地区	計
実施団体数	15 (14)	31 (34)	9 (9)	12 (13)	67 (70)
調査箇所数	44 (49)	81 (93)	27 (15)	28 (39)	180 (186)
参加人数	246 (219)	370 (380)	113 (69)	228 (88)	957 (756)

(2) 事業に対する支援

①パケットテストと比色カード（COD 以外の 5 項目）

国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所、酒田河川国道事務所、新庄河川事務所

②公定法調査協力

公益社団法人山形県水質保全協会、一般財団法人山形県理化学分析センター、株式会社テトラス、東北環境開発株式会社、株式会社東北サイエンス、株式会社理研分析センター

(3) 参加者への現地調査サポートについて

参加団体からの要請に応え、清流環境対策部会部会長・副部会長・事務局始め、会員専門機関や地域部会長、地域部会の活動団体等の協力により、学校を中心に、23 団体に事前指導や現地等にて水質調査指導や調査全般のサポートを実施した。山形県環境科学センター主催の水生生物調査と同日実施の学校等では、連携してサポートも行った。

（協力会員等）公益社団法人山形県水質保全協会、千門町蜚の会、
心のふるさと新井田川の会、株式会社理研分析センター

(4) 夏休みの自由研究のテーマなどとして、水環境を考えるきっかけになるよう小学生を対象にペットボトルで透視度計を作るワークショップを開催。

（7月28日、場所：山形県産業科学館「発明工房」）

(5) 調査結果集計については、年度末に向けて例年どおり公益社団法人山形県水質保全協会の協力を得て、レーダーチャート等を作成し、ホームページ上の報告書「笑顔を写す山形の川」に掲載している。

概要版として全県のデータを1枚の河川地図上にまとめたものを印刷し作成した。

併せて、フォーラムホームページ上に「水辺水質マップ」として掲載した。

(6) CODについては、国土交通省と市民団体が連携して実施する「身近な水環境の全国一斉調査」の一環として50地点分の器材の提供を受け、50地点分の調査結果を提出した。

2 スポGOMI大会の開催（別紙1参照）

（山形県循環型社会推進課委託事業含む）

海岸漂着物問題対策の普及啓発の一環として、市町村や地域の団体等と連携して開催した。

スポGOMI大会と啓発資材の活用やワークショップ等と組み合わせることにより、SDGsの取組み、企業のCSR活動、学校や団体、企業が行う環境ツアー等、環境教育プログラムを提案している。

（企業や団体との連携）

スポGOMI大会等へのボランティア参加、運営参画を推進している。

海と日本プロジェクト in 山形実行委員会、ゆらまちつく戦略会議、(株)安藤・間、株式会社JTB、三郷堰土地改良区、NPO法人公益のふるさと創り鶴岡、NPO法人パートナーシップオフィス、トヨタソーシャルフェス、山形大学生生活協同組合学生委員会、白鷹町美しい郷づくり推進協議会、加茂水族館、鶴岡高専など

3 海岸漂着物やマイクロプラスチック問題等の啓発（別紙2、3参照）

- （1）海岸漂着物問題普及啓发出前講座（山形県循環型社会推進課委託事業）
「身近な川や水辺の健康診断」等の実施と併せ、小中学生等に対して出前講座を実施。
- （2）ゴミ回収体験やパネル、ゴミ標本を活用した環境教育プログラムの推進
環境教育のためのゴミ標本や資材を活用した啓発、啓発資材の貸出し、説明を行った。
学校、企業イベント、マルシェ、研修会等でのワークショップ、回収体験等の開催。
スポGOMI大会、クリーンアップや水辺の健康診断等との組み合わせによる環境教育プログラムを提案している。
- （3）海と日本プロジェクト in 山形実行委員会、海と日本プロジェクトとの連携
連携協力事業例 スポGOMI 甲子園、スポGOMI ワールドカップ、河川や町中での不法投棄防止に向けた啓発事業、山形の海洋ごみを考える日、山形放送、山形新聞社その他、SNSや動画を活用した啓発。
- （4）ホームページ「最上川環境マップ」の整備

4 報告書「笑顔を写す山形の川」

- （1）「身近な川や水辺の健康診断」、「美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン」の結果報告を作成し、ホームページにデジタルブックとして掲載し、Web上で報告している。
- （2）「身近な川や水辺の健康診断」については、全県の結果を1枚の河川地図上に表した概要版を1,700部作成印刷し、次年度募集にあわせて下記の機関・団体等に配布した。
○ 主な配布先：山形県（協力機関）、各市町村・各市町村教育委員会、公立図書館、各小学校・中学校・高等学校、各大学・高等専門学校、事業参加団体、当フォーラム役員、その他要望のある機関・団体

地域の環境保全と安心づくり《課題解決》

1 美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン

- （1）実施期間 通年募集とする。
- （2）実施経費の支援 1グループ当たり一律3千円の支援。
- （3）イベントとのコラボレーション
スポGOMI大会や海岸漂着物問題普及啓発事業との併催を推進している。
- （4）最上川上流におけるクリーンアップ活動の実施
国土交通省山形河川国道事務所からの委託で長井市、白鷹町、朝日町、寒河江市、天童市、河北町の7箇所を実施。
- （5）クリーンアップ全国事務局や全国川ごみネットワーク主催の「全国水辺のごみ見つけ」にデータを提供している。

2 散乱ごみの発生抑制対策の推進（別紙3参照）

- （1）学校、企業イベント、商業施設等での海岸漂着物問題の普及啓発の実施
マルシェ等のイベントにも積極的に出展し、パネルや見本の展示、体験やワークショップ、講座、研修会。海洋へのゴミの流出削減を呼びかけた。
- （2）過年度作成した動画や啓発資材の活用
- （3）山形県海岸漂着物問題推進協議会への参画
 - ① 山形県海岸漂着物対策推進協議会の構成団体として、総会等に参加し提案等を行った。
 - ② 町中調査に基づいた不法投棄防止のための啓発事業の展開。高校生アイデアコンテスト。（海と日本プロジェクト 特定非営利活動法人パートナーシップオフィス受託事業）

- (4) 川ごみ団体、全国川ごみネットワークとの連携
全国川ごみサミット、美ロード348プロジェクト、最上川229ネットワーク

3 広報啓発

- (1) 環境展のブースへの出展等の機会を活用し、当フォーラムの活動の広報、環境保全の啓発に取り組んだ。
- (2) 会員(メールアドレス登録者のみ)のメールマガジンよりも、幅広く広報効果のあるSNSを活用した啓発を進めるとともに、フォロワー数増加のため、エンゲージメントの分析や効果的な見せ方等も試みていく。状況によりSNS広告を出している。
SNSの中でもターゲットとしたい層等によって使い分けが必要なので、情報を集めながら効果的な方法を取り入れていく。

環境や文化を地域活性化に活かす《活用》

1 最上川夢の桜街道づくり

- (1) 全市町村及び継続団体に対し、桜の維持管理等の要望調査を行い、樹木医等を派遣した。
- (2) 桜守育成のための研修会「桜守養成講座」、桜を地域資源として活かすための研修会等、桜をテーマとした緑化推進のための環境教育ワークショップを多世代に向けて地域部会と連携して開催した。

緑の環境づくり推進事業(やまがた森林と緑の推進機構)県内3か所で実施

・9/22 環境フェアつるおか 11/3 ケヤキの森どんぐりプロジェクト 11名参加

11/4 由良地区 12名参加 11/10 有屋地区 12名参加 11/10 ケヤキの森 4名参加

- (3) 県内の桜の名所や地域で愛されている桜をSNSで紹介する「桜の写真と灯りの展示会」
巡回展示では、桜守の活動紹介も行い、最上川・山形の桜の魅力を広く発信。

(3月から5月)

2 桜や水辺の写真を活用した情報発信

- (1) これまでの写真コンテスト入賞作品の貸出しを希望者に対して随時行っている。
- (2) 「桜の写真と灯りの展示会」
全市町村に展示箇所の照会を行い、令和6年3月中旬から市町村の協力を得て巡回。
桜の維持管理事業の紹介も兼ねた展示を行った。(前述)

3 地域おこしの紙芝居作成

- (1) 海岸漂着物紙芝居(令和3年度山形県視聴覚教材コンクール入賞)最上川にまつわる紙芝居(令和4年度山形県視聴覚教材コンクール入賞)、令和5年度に最上川229ネットワークとの連携により製作した紙芝居の上演、貸出しの積極的な発信を行い、動画の活用を促進している。
- (2) 地域団体からの情報を集めながら、紙芝居製作のための聞き取りや取材、関連イベント等への参加等。

地域部会

◇置賜地域部会

- (1) 村山地域部会と連携した紙芝居づくり
- (2) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
- (3) 「スポGOMI大会」への協力
- (4) 環境講座等の開催（最上川229ネットワーク（白鷹町）と連携）

◇村山地域部会

- (1) 「スポGOMI大会」への協力
- (2) 「やまがた環境展」出展の際のスタッフ協力（10月19日）
- (3) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力、補完調査
6月21日 東海大学山形高等学校での調査サポート、
10月12日 竜山川での補完調査

◇最上地域部会

- (1) 桜を守り育てる研修会開催、現地団体との連携
11月10日 金山町有屋地区
- (2) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力、補完調査
6月3日 新庄市立新庄小学校調査サポート、
10月15日 泉田川、新田川、升形川の7地点で補完調査

◇庄内地域部会

- (1) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポートの実施協力
6月6日 酒田市立平田小学校
- (2) 「スポGOMI大会」の開催、協力
- (3) 「桜の育成維持管理研修会」等開催、現地団体との連携
9月22日 環境フェアつるおか内ワークショップ、
11月3日 鶴岡市ケヤキの森どんぐりプロジェクト、11月4日鶴岡市由良地区、
11月10日 鶴岡市ケヤキの森
- (4) 内川学関連事業の開催
4月26日 内川座談会

全 体

1 総会・運営委員会・部会・役員会

通常総会（6月28日）
運営委員会（5月30日、11月27日、3月21日）
清流・環境対策部会及び最上川文化・地域経済活性化部会の合同開催（3月21日）
役員会（4月25日、11月18日、12月18日、2月28日）

2 会員拡大の取組み

- (1) 個人会員の募集
引き続き、県内金融機関並びに県、市町村の協力を得て窓口への入会案内設置などによる
会員募集キャンペーンを実施した。

会員金融機関から協力をいただき、4月から7月にかけて会員募集キャンペーンを実施した。新規加入は38会員。

(2) 法人会員の募集等

① 企業経営者に対する入会勧誘及び寄付募集等については、後述の広告料収入に注力した結果、具体的な取組みができなかったが、最重要事項と認識している。

② 引き続き、法人会員に対し、会費増額（一口5千円を1万円以上に増額）の要請を行っていく。

(3) 効果的な勧誘PR方法等の検討

企業にとって納得感が得られるようなメリットの付与や顕彰、PR方法等を検討していく。

3 運営基盤の強化

(1) 将来を見据え、当フォーラムの活動の持続的発展に資するため、法人会員の会費を一口3千円から一口5千円に増額するとした規約の改正を定時総会に提案し承認された。これによって、法人会員の会費は約20万円の増収となった。

(2) 役員が中心となり、会員拡大や支援（財源）獲得並びに収支改善を図っていく。R5年度より設置した役員会で、企業会員の増加等について検討する。企業や行政への理解、協力、連携を仰ぐため積極的に向き、次年度以降の継続に向けて働きかけていく。

今年度初めて、当フォーラム印刷物「河川水質マップ」への広告掲載依頼を、役員が中心となって実施し、下記の14社様のご賛同を得て広告入りの印刷物を1,700部作成した。

(株) 安藤・間、黒澤建設工業(株)、(株) 庄内測量設計舎、東北環境開発(株)、(株) 東北サイエンス、東北電化工業(株)、(株) ナルセ、(株) 本間利雄設計事務所 美和電気工業(株)、山形科学薬品(株)、山形建設(株)、(一財) 山形県理化学分析センター、(株) ユアテック、(株) 理研分析センター ※50音順

○ この印刷物は、広く県内関係機関・団体に配布し掲示していただくとともに、当ホームページの清流・環境部会の中の「令和6年度報告書『笑顔を写す山形の川』デジタルブック」にも当該広告を掲載しており、広くWeb上でもPRしている。

・主な配布先：山形県(協力機関)、各市町村・各市町村教育委員会、公立図書館、各小学校・中学校・高等学校、各大学・高等専門学校、事業参加団体、当フォーラム役員、その他要望のある機関・団体

(3) 専門部会のあり方については、合同開催が続いていることや参加者の減少など、現状に対する課題認識は持ちつつ、改善方策を検討していく。

(4) 地域部会の再構築については、部会長個人の頑張り依存している現状や受け皿となり得る活動団体が存在しない地域もある事などを踏まえ、人材及び財源の両面から拡充に向け取り組むとともに、地域の実情に合わせた柔軟な対応を検討していく。

4 環境省 令和6年度大気・水・土壌環境保全活動功労者表彰

当団体設立時より継続している、身近な川や水辺での環境調査「身近な川や水辺の健康診断」、河川敷を中心に散乱ごみの回収・調査（種類や数量）を毎年実施し、地域ごとにデータを可視化する「美しいやまがたクリーンアップキャンペーン」、海岸漂着物対策の普及啓発などを評価していただき、環境保全の意識向上に寄与しているとして、令和6年12月24日に標記表彰の受賞が決定した。

これを受けて、令和7年1月29日に県庁で行われた表彰状の伝達式に柴田会長が出席し、高橋山形県環境エネルギー部長から表彰状を伝達していただき、その後意見交換を行った。

その他 委託事業・助成事業・連携事業など

1 委託事業・助成事業・連携事業など

- (1) 令和6年度川～海をつなぐ「美しい元気な山形づくり」業務（山形県循環型社会推進課）
委託料：2,913,000円
・スポGOMI大会開催
・海岸漂着物問題普及啓発出張出前講座の実施
- (2) 最上川上流河川清掃活動（国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所）
委託料：528,000円
・最上川上流7か所での清掃活動
・収集ゴミを分類し、ゴミの傾向の取りまとめ（グラフ化）
- (3) 令和6年度海岸漂着物対策業務委託（米沢市）
委託料：995,500円
・「よねざわ環境フェス2024」運営管理
- (4) 運営体制整備事業費補助金（山形県）
補助金額：4,495,000円
・事務局長設置費
- (5) 緑の環境づくり推進事業（公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構）
助成額：146,213円
・桜の維持管理研修会
・環境教育ワークショップ等の開催
- (6) 水環境保全助成事業（一般社団法人全国浄化槽団体連合会）
助成額：200,000円
・「身近な川や水辺の健康診断」の実施
- (7) 寄付金（山形信用金庫様） 寄付額：100,000円
・活動費用の寄贈
- (8) 寄付金（鶴岡市立加茂水族館） 寄付額：30,000円
・海ごみ問題を対象とした活動への寄付金
- (9) 山形県海岸漂着物対策推進協議会への参加
・6月24日 総会出席、1月17日 総会Web参加
- (10) 全国川ごみネットワークとの連携
・12月20日 川ごみサミット開催 川ごみオンラインセミナー
- (11) 「海と日本プロジェクト」との連携
委託額 561,000円
・海と日本プロジェクト in 山形
海岸漂着物問題啓発事業（さくらんぼウォーク等）、スポGOMI甲子園、スポGOMIワールドカップなどの実施
- (12) 国、県、市町村や企業・団体とのコラボレーション事業など連携の強化
・普及啓発活動の推進等
- (13) フォーラム印刷物への広告掲載協力企業（1社5万円、14社）
・(株)安藤・間、黒澤建設工業(株)、(株)庄内測量設計舎、東北環境開発(株)
(株)東北サイエンス、東北電化工業(株)、(株)ナルセ、(株)本間利雄設計事務所
美和電気工業(株)、山形科学薬品(株)、山形建設(株)、(一財)山形県理化学分析
センター、(株)ユアテック、(株)理研分析センター ※50音順
- (14) 協賛金 (株)シェルター 5万円

※敬称略